

一般質問

一般質問は9月11日から13日までの3日間、19人の議員によって行われました。質問は、教育や防災に関するものをはじめ、市政全般にわたり、活発な議論が展開されました。(質問者の文責により、質問と答弁の要旨を掲載)



適正な事務事業遂行のため 必要な職員数を確保せよ

緑水クラブ 佐藤 敦

職員と給与について

一新はだの行革推進プランの「職員数の適正化」は削減ではなく事務事業の遂行に必要な職員数の確保に努めるべきと思う。行革を進める中、職員の意欲を維持・向上させる取り組みはどのようなか。

答 人事評価において個々の能力や実績を的確に把握し、効果のある適材適所の人材配置や能力開発による仕事効率の一層の推進を図りたい。また、給与面では、良好な職員に対し、昇給や勤勉手当での加算をこれまで以上に活用し、職員の意欲の維持・向上を図ってきたい。

二 財政運営について

現市長が就任以来、市の借金は減り、貯金は増えているが、市内中小事業者の経営安定化のためにも、公共事業に必要な財源を投入していくべきと思うがどうか。

答 借金は今後も減らしていく考えであるが、市の発展、市民サービスの充実を図るため、必要な施策、分野にはしっかりと財源を投入していきたい。

三 財政再建について

本市の借金は864億円で、内訳は、市債802億円、土地開発公社32億円、学校建設公社12億円、債務負担行為18億円となり、未収金は53億円ある。平成24年度の国の補助金は66億円、県の支出金は32億円だが、今後、補助率の低下が懸念される。行政のスリム化に取り組み決意はどのようなか。

答 公共施設再配置計画の推進、民間委託等の推進など6つの改革の視点で、27年度までに40億円を生み出すことを目標としている。

二 青少年の未来について

東海大学の望屋丸を活用した洋上体験研修は、延べ10回で838人の中学生が参加しているが、成果はどのようなか。

答 参加者や保護者から、体験を通して人間関係が広がったという声もあり、継続していきたい。

三 安全で健康なまちについて

南海トラフ地震では32万人が死亡し、富士山の噴火では40万人が被害を受け、本市でも約20万トンの灰が積もると想定されているが、対策はどのようなか。また、平成27年に完成するカントリーパーク再整備事業では、パークゴルフ場を予定どおり設置するののか。

答 県内自治体間での支援、帰宅困難者対策など24年度中に防災計画を修正したい。また、入門的なパークゴルフなど多目的に利用可能な広場として計画を進めていく。

公民館 古木 勝久

市民の安心・安全を守る 立体横断施設の設置に政治決断を

新政クラブ 今井 実

鶴巻温泉駅南口広場整備事業について

地域からの強い希望である、にぎわいの拠点となる駅前広場の整備状況はどのようなか。

答 駅前広場周辺地区については、市民構想の骨格的な理念や思いを取り入れた土地区画整理的な手法により、調整、整備を進めている。

二 地域の安心・安全の確保に不可欠な立体横断施設の整備について

橋上駅舎と同等の機能を持った立体横断施設を検討しており、年内に全体像や今後の整備スケジュールを提示したい。

現在移転希望が無く、市営駐車場として活用している事業用地

答 自治会と協力し、実現に向け検討していきたい。

公民党 山下 博己

耐震化を含めた 橋りょう修繕計画に

財源は不要である。本市では全施設の蛍光灯約5万本をLED化した場合、節電効果は年間約5000万円で、CO₂削減量は約1000トン、ブナの木約9万本に匹敵する。新たな財源の不要なリース方式によりLED化を実施すべきと思うがどうか。

答 本市に合った最適なLED照明の導入方法をしっかりと検討していきたい。

二 橋りょうの長寿命化修繕計画について

長寿命化修繕計画には耐震化

室での発達検査により、言語能力や社会適応性などを把握し、発達課題などに応じて適切な療育を行っている。さらに訓練が必要な場合は、日常生活動作や集団適応訓練などを集中的に行う、たんぽぽ教室を紹介している。また、平成24年度から、児童発達支援センター11か所、児童発達支援事業所2か所と連携し、さらなる支援の充実に努めていきたい。

学校生活における発達障がい

発達障がい児者への支援を充実させ
共に生きる社会を創造せよ

公民党 野田 毅

行政主導でなく 住民参加型の合意形成を

公民党 古木 勝久

公共施設再配置計画と公民館について

行政主導の公共施設再配置計画の推進に当たり、住民との合意形成をどう実施していくののか。

答 節目ごとに施設利用者、当該地域の関係者に説明の場を設け、理解を得られるように努めたい。

要望 将来、どのように施設運営をしていくか市民と行政がしっかりと合意形成をつくりあげることが



職員の福利厚生施設としての 地下食堂の復活を

新政クラブ 高橋 徹夫

地下食堂の復活と職員の健康管理について

平成21年9月まで本庁舎の地下食堂が営業され、職員や市民に食事を提供するとともに健康管理の一端を担ってきたと考える。現在は、食堂兼談話室として利用されているが、食育推進や職場産品の消費拡大のため、地下食堂を復活してはどうか。

答 地方公務員法の趣旨にのっとり、職員の福利厚生施設として設置した。昼食形態の多様化により、アンケート調査を実施し、新規事業者への切り替えを考えたが、条件面で合わず閉鎖した。現在は、

二 ホンジカや二ホンザルなどによる山麓部での農業被害やハクビシンの民家侵入による生活被害が発生している。特に、二ホンジカの行動域の拡大でヤマビルによる被害が拡大している。県が策定する特定計画や、周辺市町村とも連携を図り、各種対策を計画的、戦略的に実施して、被害防止に努めていきたい。

公民党 山下 博己

発達障がい児者への支援を充実させ 共に生きる社会を創造せよ

公民党 野田 毅

発達障害施策について

感情のコントロールができない、対人関係がうまく取れないなど、情緒や行動上の課題を抱えた児童が増加しており、個々の発達段階や障害程度に応じたケアが必要であるが、発達障がい児および発達に課題のある児童に対する取り組みはどのようなか。

答 発達に課題があると判断された未就学児童には、ことばの相談

公民党 古木 勝久

行政主導でなく 住民参加型の合意形成を

公民党 古木 勝久

公共施設再配置計画と公民館について

行政主導の公共施設再配置計画の推進に当たり、住民との合意形成をどう実施していくののか。

答 節目ごとに施設利用者、当該地域の関係者に説明の場を設け、理解を得られるように努めたい。

要望 将来、どのように施設運営をしていくか市民と行政がしっかりと合意形成をつくりあげることが

公民党 野田 毅

発達障がい児者への支援を充実させ 共に生きる社会を創造せよ

公民党 野田 毅

発達障害施策について

感情のコントロールができない、対人関係がうまく取れないなど、情緒や行動上の課題を抱えた児童が増加しており、個々の発達段階や障害程度に応じたケアが必要であるが、発達障がい児および発達に課題のある児童に対する取り組みはどのようなか。

答 発達に課題があると判断された未就学児童には、ことばの相談

公民党 古木 勝久

行政主導でなく 住民参加型の合意形成を

公民党 古木 勝久

公共施設再配置計画と公民館について

行政主導の公共施設再配置計画の推進に当たり、住民との合意形成をどう実施していくののか。

答 節目ごとに施設利用者、当該地域の関係者に説明の場を設け、理解を得られるように努めたい。

要望 将来、どのように施設運営をしていくか市民と行政がしっかりと合意形成をつくりあげることが

公民党 野田 毅

発達障がい児者への支援を充実させ 共に生きる社会を創造せよ

公民党 野田 毅

発達障害施策について

感情のコントロールができない、対人関係がうまく取れないなど、情緒や行動上の課題を抱えた児童が増加しており、個々の発達段階や障害程度に応じたケアが必要であるが、発達障がい児および発達に課題のある児童に対する取り組みはどのようなか。

答 発達に課題があると判断された未就学児童には、ことばの相談

公民党 古木 勝久

行政主導でなく 住民参加型の合意形成を

公民党 古木 勝久

公共施設再配置計画と公民館について

行政主導の公共施設再配置計画の推進に当たり、住民との合意形成をどう実施していくののか。

答 節目ごとに施設利用者、当該地域の関係者に説明の場を設け、理解を得られるように努めたい。

要望 将来、どのように施設運営をしていくか市民と行政がしっかりと合意形成をつくりあげることが



災害に強い橋の整備を